

会員の活動報告

(1994年11月～1995年10月)

伊川 徹

地の震え(阪神大震災体験記) (『会報』11号, 関西大学仏文学会, 1995年3月)

DELF, DALF, DAPF (rapports avec M. Jean-Marc SARALE et M. Tadashi MATSUSHIMA) (第9回関西フランス語教育研究会口頭発表, 於大阪大学, 1995年3月)

伊地智 均

学問の無常なること——「クラシック」と「バロック」をめぐる—— (『仏語・仏文学』第22号, 1994年12月)

アパルトマン探し (在外研究員エッセイ) (関西大学国際交流センターニュース, *A Tiny Ripple*, No. 17, 1995年10月)

近江康則

Les Trésors du Musée Sankōkan (8) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO, 1994年11月)

Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (9) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO, 1995年2月)

Les Trésors du Musée Sankōkan (9) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO, 1995年5月)

Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (10) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO, 1995年8月)

小方厚彦

16世紀フランス語における否定表現(Ⅲ)——*Chroniques Gargantuines* について—— (『関西大学文学論集』第44巻第1～4号, 文学部創設70周年記念特輯, 1995年3月)

古語研究上の問題点——16世紀フランス語の場合—— (関西大学仏文学会口頭発表, 1994年12月)

奥 純

Un Régicide について (『関西大学文学論集』第44巻第1～4号, 文学部創設70

周年記念特輯, 1995年3月)

柏木 治

G.G. ド・クレランボー『女性における布への性愛的情熱』翻訳(共訳)(『現代思想』12月号, 青土社, 1994年12月)

神垣享介

『ベスト』における模倣——ランベールの場合——(『仏語・仏文学』第22号, 1994年12月)

川神傳弘

『嘔吐』における「緒言」の意味——問題小説のささやかなる美学——(『関西大学文学論集』第44巻第1~4号, 文学部創設70周年記念特輯, 1995年3月)

北野文英

ベルクソニズムの曙(1)——ニュアンス——(『仏語・仏文学』第22号, 1994年12月)

ベルクソニズムの曙(2)——知性——(関西大学仏文学会口頭発表, 1994年12月)

新家 桂

アルチュール・ランボーの「斜面」(『千里山文学論集』第53号, 関西大学大学院, 1995年3月)

関谷一彦

サドの矛盾したエクリチュール——『閨房哲学』をめぐって——(『関西フランス語フランス文学』第1号, 日本フランス語フランス文学会関西支部, 1995年3月)

サドの矛盾したエクリチュール——『閨房哲学』をめぐって——(日本フランス語フランス文学会口頭発表, 於神戸女子大学, 1994年11月)

武本雅嗣

間接属詞——副詞的機能を持つ付加詞——(『仏語・仏文学』第22号, 1994年12月)

L'attribut indirect: fonction et contraintes sémantiques (*Études de langue et littérature françaises*, n°66, 1995年3月)

太治和子

マリヴォーにおける前置詞＋関係代名詞について（『仏語・仏文学』第22号，1994年12月）

Beauzée の時制論——前未来について——（関西大学仏文学会口頭発表，1994年12月）

津川廣行

ジイドをめぐる「物語」論（駿河台出版社，1994年11月）

マルローと科学技術（『人文研究』第46巻第1分冊，大阪市立大学文学部，1994年12月）

ジュール・ルナールを読む（『ちょっといっさつ』23，大阪市立大生協，1995年7月）

鄭 久信

紋切型と共同体——『ブヴァールとベキュシュ』論（1）（『阪南論集』人文・自然科学編，第31巻第2号，阪南大学学会，1995年9月）

内藤義博

ルソーの音楽論 その二——音楽模倣論——（大阪千代田短期大学『紀要』第23号，1994年12月）

女の歴史Ⅲ，16——18世紀（第10章 哲学の著作のなかの女性）（翻訳）（藤原書店，1995年1月）

野浪嗣生

遊学のすすめ（『葦』99号，関西大学教育後援会，1994年12月）

平田重和

アルベール・カミュ書誌（2）（『周辺』15号，1995年10月）

本田忠雄

古フランス語における過去分詞の一致について（『関西大学文学論集』第44巻第1～4号，文学部創設70周年記念特輯，1995年3月）

形容詞“vermeil”についての一考察（『T.L.L.M.F.』第6号，1995年9月）

山村嘉己

人権問題研究室二〇年の流れの中から（座談会）（関西大学『人権問題研究室紀要』30号，1995年2月）

人権と大学（関西大学人権問題研究室パンフレット，1995年3月）

フェミニズムの現在（関西大学人権問題研究室パンフレット，1995年3月）

マラルメと女性（その1）（関西大学『人権問題研究室紀要』31号，1995年5月）

象徴主義は死なず — フランス象徴主義詩史概説 — （青山社，1995年6月）

和田ゆりえ

G.G. ド・クレランボー『女性における布への性愛的情熱』翻訳（共訳）（『現代思想』12月号，青土社，1994年12月）

修 士 論 文 題 目

1995年3月

栗野 広雄 17世紀フランス文学におけるプレシュールな特徴について
— Molière と l'abbé de Pure をめぐって —

1995年3月

岩村 学 『失なわれた時』の精神分析的批評
— ヒコウキと隠喩 —

後 記

例年通り、本学会の研究発表会、総会及び懇親会が12月16日午後2時より千里山学舎で開催された。研究発表会では、昨年と同じく4名の会員が日頃の研鑽の成果を披露され、各発表ごとに熱心な質疑応答も行われて、盛会であった。発表者の氏名と題目は次の通りである。

発表（於 第1学舎3号館AV・A教室）

1. 栗野広雅 L'abbé de Pure の『才女または閨房の秘密』における la précieuse について
2. 西山悦代 現代フランス語における〈VENIR DE + INF〉について
3. 関谷一彦 あなたはサドを嫌悪する——『閨房哲学』の性行為の描写を通して——
4. 円尾 健 近代リアリズムをめぐって——フランスを中心として——

1995年は阪神大震災に始まる多難な1年だった。1996年はどんな年になるだろうか。学会の今後の発展を目指して、会員諸氏の一層のご活躍とご協力をお願いしたい。

（小方）

関西大学仏文学会々則

1. 本会は関西大学仏文学会と称し、事務所を関西大学文学部フランス文学科合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語・フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語・仏文学」およびその他の出版物の刊行
 2. 研究会・講演会の開催
 3. その他本会の目的にかなう事業
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部フランス文学科専任教員
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻学生、およびその卒業生
 3. 関西大学文学部フランス文学科学生、およびその卒業生
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会 長 1 名
 2. 委 員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語・仏文学」等の配布をうけ、その他本会の行なう事業に参加することができる。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

仏 語 ・ 仏 文 学

第23号

1995年12月20日発行

編集・発行

関西大学仏文学会

吹田市山手町

関西大学

フランス文学研究室

印刷所

アテネ出版印刷株式会社

大阪市東住吉区桑津3-13-18

電話 06-713-0471番<代>

(非売品)